

せいしょ ふくいんしょ
《聖書》ルカによる福音書 10:38-42

マルタとマリア

マルタとマリアの話はいろんな所でよ
く使われています。しかし、たいていの
場合は自分の事を弁護する時によく使わ
れています。今までの教会はあまり社会
的な事にかかわろうとしませんでした。
社会的な事に関心を向けるより、神に祈
りなさいと言ってきました。つまり、マ
ルタのように社会のわずらわしい事に頭
を悩ますよりも、教会に来て、すべてを
忘れてただ神にだけ仕えなさいと教えて
きました。
この結果がどのようにになったかは、皆
さんもすでに気づかれていますと思います。
つまり、社会の悪い面があっても目をつ
ぶってしまって何も言わず、何も考えず、
ただできるだけ悪い面に染まらないよう
に、教会という囲いの中にとじこもって
しまったのです。

マルタとマリアの話をこのような意味
でとらえていいのでしょうか。イエスは
マルタのしている事を批判したのではなく、
マルタがマリアのしている事に文句
を言ったから、しかったのです。しなくて

はいけない事がたくさんありますが、選
ぶ事ができるのは一つだけです。マリア
は自分の判断でそれを選んだのです。人
は自分の選んだ道が最高であると思い、
他の人にも同じ道を選ぶように強制して
しまいます。マルタも同じであって、自
分の選んだ道ががんばって歩めばいいの
です。

選ぶ

始めから自分はこうしようと考えて選
ぶのではなく、たまたまある出来事にで
くわして決断をせまられることがあります
です。自分がたまたま選んでやっている事
はそれで十分とは言えないのですが、人
は一つの事しか選べません。しかも、選
んだ道が一番正しかったかどうかは判断
できません。とにかく選んだ道を進むし
かないのです。

どの道を選んでもしんどいはずず。
しかし、自分が選んだ道はしんどいよう
に思えてきます。だから、ついついぐち
も言いたくなるのです。人の事をとやか
く言うひまがあったら、自分のできる事
を一つ一つかたづけしていくようにしたい
ものです。